

1. 展示会の概要

5月6～8日の3日間、米国シカゴで、UBM Canon社（カリフォルニア州）主催による米国粉体工業展（PTXi - international Powder & Bulk Solids）が開催された。粉体工業と医薬・包装・化学・食品製造技術の4展示会との共催で、1983年から開催してきたリード社の後を受けて、2008年よりUBM Canon社主催として4回目となった。

2. 前回（2012年）との比較

前回の2012年で回復傾向を報告したが、今回それをかなり実感できた。表-1に2012年の来場者数との比較を示す。

表-1 2010、2012年の来場者数との比較

	展示のみ 来場者数	技術会議 参加者数	合計
2010年	4,929	298	5,227
2012年	6,000弱	約300	6,300前後
2014年	6,453	378	6,831

2010年に来場者が底を打ち、2012年6,300人、今年は6,831人と来場者が増加している。出展社も、2012年参加した企業の多くが今年も参加している。

3. 日本からの出展企業

今回、PTXi (iPBS) 展への現地法人を含めた日本企業の出展は弊社を含め全部で14社と、2010、2012年のパウダーショーの時と同レベルである(表-2)。今回、弊社にて、日本企業5社の直接出展の支援を行ったが、前回同様、共通 아일랜드ブース（合計6コマ、写真-1）でも出展した。大きく、良い場所で機械を見せることによ

表-2 2010、2012年との出展企業比較

	日本からの 出展企業数	日本以外 出展企業数	合計	日本からの 直接出展社数
2010年	14	367	381	8
2012年	13	395	408	7
2014年	14	398	412	6

<14社の企業名> エクセン(株)、(株)マツポー、トリプルエーマシン(株)（以上共同ブース）、藤崎電機(株)、(株)マツシマメジャテック、(株)ヨシカワ、以上日本から直接出展、AAAmachine, Inc. AAA Save Energy, LLC. (Des Plaines, IL)、Freund Vector (Marion, IA)、Fuji Robotics (Redmont, WA)、Horiba Instruments Inc. (Irvine, CA)、Hosokawa Micron Powder Systems (Summit, NJ)、Kuriyama of America Inc. (Schaumburg, IL)、Readco Kurimoto LLC (York, PA)



写真-1 日本企業共同ブース

り集客効果を高めつつも、同時に打ち合わせテーブルや簡素な装飾などを共有することで出展コストを下げながら、米国女性モデルを採用し集客数増を目指した。実際、単独出展よりも効果が大きく、前回同様多くの集客を得た（2012年6社合計368名、2014年5社合計388名）。1社当たりのコストが節約でき当初の目的は達成できたといえるが、今回は、周知不足のため共同ブースへの参加企業が2社と少なく、共同ブースのメリットを最大化できなかった。次回の2016年では、これを反省し、共同ブースに参加する企業（4～5社）を早期に確定することで、日本からの出展企業・出展機械を全米のユーザーに早くから情報発信することを心がけたい。

4. 展示・技術会議内容

今回も前回同様、技術会議が併設され、3つのTech Innovation Sessionが実施され、日本からAPPIE 海外交流委員会委員長 辻裕先生が、パネルディスカッションで2回発表された。またTech Theaterでは藤崎電機(株)による技術発表もあり、日本の粉体技術プレゼンスが米国でも高いことを実感できた。

5. おわりに

日本企業の米国での知名度はまだ不足している。いかに、粉体機器市場の成熟した米国において自社の企業・商品のブランディングを構築するか、それに今後のマーケティングの成否がかかっていると見える。展示会を広告経費としてではなく、営業経費と考えることも必要で、次回の展示会（シカゴ、2016年5月3～5日）に今から準備をして決して遅くはないと考える。